

PHD LETTER

<15>

1985・6

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD運動とは、1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会
 編集人:草地賢一
 住所:〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
 甲南サンシティ元町ビル711 TEL(078)351-4892
 郵便振替:神戸1-29688財団法人ピー・エイチ・ディー協会
 定価:100円
 レイアウト:エフアンドエフ

- ネパールから見たPHD運動—シバ・シュレスタ氏に聞く…………… P.3
- 研修フォローアップレポート…………… P.4-5



タイ第三の都市チェンマイから北西へ車で8時間、山岳民族のひとつ、カレン族の村で、竹筒で水を運ぶ婦人

住民の所に行って 彼らの中に住んで
 その土地の気候 風土 習慣の中から生活の知恵を学び
 しかし 危険な迷信はやめるようにすすめ
 相手の身になって考え 相手のニーズに応じて自らを用意し 相手と共に生き
 彼らが知っていることで始め 彼らもっているものの上に築こう!!
 最後に 君が今 最上の指導者であるならば
 将来その事業が完成したときに 住民はこう言うようになる
 「この事業を完成したのは われわれ自身だ」と

スイスでの話 子供の心に育つ思いやり



PHD協会理事 齋坂二夫
1909年鹿兒島生まれ、京都大学卒。
鹿兒島大学教授、京都大学教授を経て現甲南女子大学長。

「あれほど感じ入ったことはありませんでした。そして、私たち日本人はもっともっと考え直さなければいけないと思いました。」スイス留学から帰国した友人の大学教授の速報であった。この友人は妻子を伴って滞欧。子供は、ちょうど幼稚園期であった。やがて小学校に上らなければならない。「これには困りました。」と言った。そうであろう、わが子の教育の問題こそ、海外にいる人の一番の関心事であると言うから。スイスでは多く、ドイツ語、フランス語、イタリア語が語られ、それでも英語で教える私学もあるが、月謝が高い。そこで奥さんと相談して、ドイツ語で教える小学校を選んだ。彼は多少のドイツ語は理解できる。奥さんと子どもは全然分らない。「それでも已

むを得ないと自分に言い聞かせて決心しましたよ。」と語った。入学の日、奥さんは子どもを連れて、一抹の不安をいだきながら小学校へ。校長先生に伴われて、母と子は一年生の教室に案内された。30人位の一年級の子どもたち。みんな拍手で迎えてくれる。その親しみ深い雰囲気にもかかわらず、子どもは示された席に座ると、下を向いたまま。やがて涙が。奥さんは、予期したものが来たと思念したという。ところが、教壇に立った校長先生は子どもたちに向かって言った。「さあ、みんなて歌をうたおう。」と。立ち上った子どもたち。そして歌われた歌、それが「でんでん虫」しかも日本語ではないか。これを聞いた子どもが、涙目でびっくり笑った。自分も立ち上って一緒に歌った、その「でんでん虫」。奥

さんからこのことを聞かされた友人は、心から驚いたという。早速校長先生を訪れて、事の次第をうかがうと、校長の答はこうであった。「いや、あなたがお子さんの入学について相談にみえた時、私は、今日のことを予想しました。そこで、あなたのお子さんと同じクラスに入る筈の子どもたちの世話をしている幼稚園に行つて、園長に頼んだのです。」その子どもたちに「でんでん虫」を教えておいてくれるように。日本語で。」私の友人は感慨をこめてこまて語った。問題は言葉や観念ではない。実行なのである。「人もし汝が一里の行を請いなば、喜んでその三里を行け。」バイブルにも、こう教えられている。犠牲とはそのようなことであらうか。

PHD運動の 輪をひろげるために

新しい年度が始まって2ヶ月たちました。今PHDの事務所にはアジア3ヶ国からの研修生4人と会員の人がびと活気あふれる声が

こだましています。来年度からは更に多くの国々から研修生を迎えて、もっとこの草の根の国際交流運動を拡大したいという願いが大きくなっています。去る4月末には評議員会の小委員会が開かれ、財団の基本基金充実のための募金運動が働き始めるところまできました。いっぽうこの運動は会員の参画によって展開されるものであることはよくご承知のこと

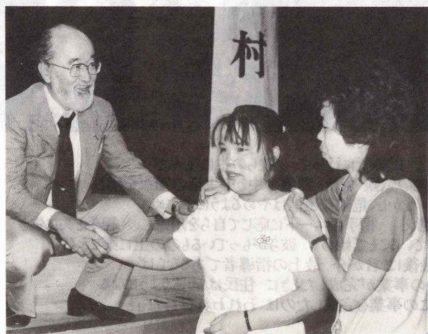
と存じます。現在何とかして一人でも多くの会員を発見し加わっていただくよう会員増強に努めています。日本の国際協力事業が国家のみでなく市民の手でねばり強く継続されていくためにはNGO(非政府組織)が成長しなければなりません。みなさんの地道なご協力とご支援を心からお願いします。

PHD協会総主事 草地賢一

架け橋

PHD運動唱導者 PHD協合理事
岩村昇

「なかよく、すこやかに、いきいきと、いただきます!!」元気な声がひびいて来る。フィリピンPHD運動推進者パニサレス氏、リト氏、ウィーリー氏、レネ氏の4人である。フィリピンの首都マニラから乗合バスで1時間半、ラグナ県パイ郡パイ町にある包括的共同体保健計画・附属病院の食堂で、私達は昼食をいただいで居



講演会場の岩村博士

る。私達のまわりには、フィリピン大学医学部の学生達が丁度12人食事をして居る。皆、無医村診療の実習にやってくる医師の明達である。その医師の明達の前で、フィリピン大学・共同体保健計画の教授であり、4

人を選んでPHD研修生として日本に送ってくださったドクター・ギヤスマンも、皆と一緒に質素な食事が終ると、簡素な食堂は、そのまま談話室になった。4人のPHD運動推進者1人1人を、3人ずつの医学生達が取り囲んで、話がはずんでいく。4人は力説する。「『Peace平和も、Health健康も、叫んで居るだけではやって来ない。』私と貴方が、自分よりも貧しい隣人と共に、自分の時間、知識、技能だけではなく、せめてポケット・マネーの10パーセントを分かち合う人間になるHuman Development。」これしかし、無医村を「なかよく、すこやかに、いきいきと」した共同体にする道は無い!!」ドクター・ギヤスマンは、にこやかに言われた。「PHD運動は、ここでも始まった。」

編集部(以下編とする):シュレスタさんが期待するPHD研修生とはどんな人でしょうか。

シュレスタ(以下Sとする) まず、地域社会に貢献していく姿勢と経験を持っている事が大切で。更に、日本から帰国して地域の草の根の人々と共に生活改善に取り組む事を考えると、人々を指導できる能力と共に、自らを変えていく事のできる資質をもった人であることが必要だと思えます。そして最後に、経済的にも精神的にも自立した人間であること。こうした条件を満たす人は少ないのですが、しかし彼等こそがPHD精神を人々に伝えていけると思っています。今、日本にきているジョーパナさんともニールンさんともこの期待にそえる人材と確信しています。

編:帰国後、研修生達がネパールでPHD運動の実践者になっていくために必要な事はなんですか。

S—それは、「生きるとは分かちあうこと」というPHD精神を生活の中で実践すること以外ありません。この精神を実行しながら、日本で学んだ技術・知識の普及を通じて具体的な生活改善を時間がかかっても行なっていくことです。ご承知の通り、研修生自身も村の人

ネパールから見た PHD運動

シバ・シュレスタ氏に聞く



Mr. Shiva Shrestha
ネパール結核予防会プログラム・ディレクターとして、長年結核の早期発見治療に取り組む。PHD研修事業のネパール側推進者の一人。所用のためこの4月来日。ネパール、カトマンズに住む。

々も本当に貧しいのです。具体的な改善が初めて、その過程で示されるPHD精神が受け入れられるのが実状だと思えます。

編:そうした研修生達の働きを支えるためには、ネパール国内でPHD運動の支持者を増やしていく事も必要ではないでしょうか。

S—まさにその通りです。私は、この「共に生きる」理念を実践を通じて私達自身のものにしていきたいと考えています。幸い、PHD運動に理解あるいは興味をもった人々、団

ON THE WAY

先回に続き第2回の報告はタイ、ビルマ、フィリピンです。ネパール、スリランカは初めての訪問でしたがビルマは4年ぶり、タイは10年前に1年余り住んでいたこともあって緊張が少し柔らいできました。

バンコクから約40分の空の旅でラングーン郊外のミンガラドン空港に着きます機内の乗客約6割が日本人。40年前に戦ったインパール作戦の戦場を訪ねる60代の人々を中心とした。

4年前と較べて変わったこと。ラングーン市内の建物がきれいに塗り替えられ明るくなったこと。変わっていないこと。第一はブラックマーケットの隆盛と裏腹の民衆の不満。第二は少数民族の分離独立を求めている内乱等々。ここでも都市と農

村の格差は大きく僕の訪ねたラングーン郊外の村の貧しさはスリランカに近いものでした。医師を始めとして政府に動くテクノクラートから一般の民衆に至るまで国外へ出ることは極めて困難でそれだけにその願望は極端に強く感じられました。今ビルマで最高の職業は外国航路の船員であるというのもその意味では頷けます。バンコクのドンムアン空港からダウンタウンまでの風景が変わりつつあります。



村人が本当に必要なため池



水利と関係のない王様客離のため池

以前は水田であった所に団地が出現し道路が整備されてきています。チェンマイも10年前と較べて郊外の団地化が進んできていました。しかし農村からの人口流入は必ずしも減少してはいないという

体がネパールには沢山あります。また、資金的にも日本の皆さんの善意に頼るのみならず、ネパールの中産階級の人々自身が研修生の働きを支えているようになって欲しいと思えます。要は、ネパールにおいてこのPHD運動をいかに広めていくかが、帰国した研修生の活動の成否を握る一つの鍵だと思えます。

編:私達は物やお金でないフォローアップで研修生を支えたいと考えていますか。

S—実は研修生の帰国後の活動を支えるもう1つの柱はフォローアップなのです。まず、今年の1月岩村博士と共に日本で指導された先生がネパールに生まれ、研修成果と一緒に発表しました。これは研修生自身にも、また人々に知ってもらふ意味でも大成功だったと思えます。今後も何とかこうして形で、日本人の先生と共に研修生とPHD精神を人々に紹介していきたいと思えます。また、物・金でない支援に私は基本的に賛成ですが、新しいプログラムのスタート時点においては、ある程度の資金的・物質的支援の検討が必要なのもあると思えます。

(4月24日、神戸において英語によるインタビューを協会がまとめた。)

いますからスラムの人々がこのような立派なところへ移るはずがない。とすればタイにも中流階級が出現しつつあるのでしょうか。やはりバンコク郊外トンプリの友人宅に行った時、彼も又給料の50%をローン支払にまわしているとのことでした。にもかかわらず大多数の農村の生活は中流に程近いのが実状です。チェンマイから北西へ8時間ランドローバーで走って、ようやく今年の研修生ブリチャー君の村ムシキーに着きます。村民

の意向と関係の無いため池が乾期で水不足の村ははずれに満々と水を貯えています。聞けば日本の援助で王様がつくったとのこと。ここでも農民の苦しさが忘れられていました。ビルマ、タイ、いずれも都市と農村の格差はものすごく今求められているのは草の根の進歩だという実感を持って訪問して。紙面の都合で次回にアキの暗殺以後混迷を深めるフィリピンにて感じた事を記して報告を締めくくりたいと思えます。(草地賢一)

フォローアップ報告

ブレンドラ・アマティアさん
(第一期生・ネパール)



帰国してまもなく2年になろうとするアマティアさんから手紙が届きました。彼はネパールに戻り、結核予防会で作事をしてきましたが、彼がめざしていた「養鶏計画」に本格的に着手するため、独立しようです。詳しい計画を待つ、PHDからの支援を決定しますが、別の地域で養鶏にとりくむ、ピスタ、アディカリ氏のフォローアップと合わせ、今年12月に、彼ら3人が日本へ共にお世話になった養鶏専門家のネパール訪問指導を予定しています。彼を激励する手紙を届けたと思います。日本語でも結構です。PHD協会までお送り下さい。

この目でインドネシアの漁村を 第4期生受入れ準備スタート

岩村博士講演会・PHDセミナー開催そして、3期生の合宿受入れとPHDの輪が着実に広がりつつある淡路島の五色町で、次期研修生の受入れ準備が始まりました。インドネシアのベイ先生の訪問(14号に登場)を機に、米春、スマトラから漁業青年を迎える話がすすみ、五色町で漁業を営む方々が中心となって8月に自費でスマトラの漁村を訪問し、どんなところで、どんな方法で漁業が行われているか、プロの眼で確かめることになりました。そして、五色町で受入れが可能か、無理ならば日本のどこが適当かを判断することになります。1期生受入れの際、丹波篠山の方々からネパール、フィリピンを前もって訪れて下さったケースと同じような理想的な形です。協会からは草地区長さんお伴し、研修生候補者との面接も行われます。



ネーラン・ガウチャンさん(ネパール)
日本人とネパール人とは考え方が違うように感じますが、これは生活の違いによるものだと思います。ネパールでは、医者にかかるとに何日もかけて行くのが普通ですが、このことに驚く日本人にびっくりしました。

滞在家中から 神戸市北区 草地区長宅
はじめはタイ語だけで、お母さん大変だったけれど、日本語がどんどん上手になったので嬉しかった。一裕子(小6) もっと長くてほしいのにお別れでいやだな。いっしょに遊んで楽しかった。一まい子(小5)

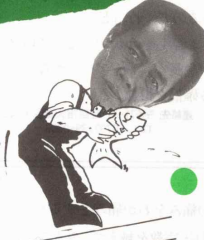
日本の人は歩くのが早く、ご飯を食べるのも早いですね。私も早くなりました。私は早いのが好きです。私の村の子供たちは学校に行かなくても、家の手伝いのために途中でやめることが多いのですが、日本ではみんなが学校へ行けるので驚いています。



滞在家中から 神戸市北区 草地区長宅
はじめはタイ語だけで、お母さん大変だったけれど、日本語がどんどん上手になったので嬉しかった。一裕子(小6) もっと長くてほしいのにお別れでいやだな。いっしょに遊んで楽しかった。一まい子(小5)

研修フォローアップレポート

ネパール、タイからの第3期PHD研修生3名は3月28日に、フィリピンからの短期研修生1名は5月2日に、無事来日しました。4月上旬に多くの参加者を得て行ったオリエンテーション合宿(淡路島五色町)、その後の日本語学習を終えて、5月から各々の専門研修に入っています。国内研修は、地域の平和や健康づくりのための技術習得とそれを村ですすめていくためのリーダーシップ養成をめざします。来年3月までの滞在を通じて多くの方と出会い、互いに学び合ってほしいと思います。



フランクリン・ファーマンさん(フィリピン)
淡水魚(テラピア、こい、ふな)の養殖の技術、またその経営法を学びます。短い期間の滞在なので時間を有効に使いたいです。日本語を覚える時間がなく、多くの方と直接話しがてきないのが残念です。

研修生予定表		7月	8月
プリチャーさん 稲作・堆肥づくり	兵庫県美方郡 井上さん宅	兵庫 豊前市 豊前町 豊前町 豊前町	合宿研修 豊前町 豊前町 豊前町
ガウチャンさん 大豆の栽培・加工	神戸市西区 上土緑の会	兵庫 豊前市 豊前町 豊前町	合宿研修 豊前町 豊前町 豊前町
シヨバハさん 洋裁	西宮市 神戸服飾専門学校	西宮市 甲陽園 田中さん宅	合宿研修 豊前町 豊前町 豊前町
フランクリンさん 淡水魚の養殖	大阪府 淡路島 試験場・他	枚方市宮ノ阪 市川さん宅・他	合宿研修 豊前町 豊前町 豊前町



3月28日9:00PM 大阪空港に到着



シヨバハ・シヨラスさん(ネパール)
日本はとても発展しています。また親切な人が多いと思います。日本人は、いつも忙しくて、時々、空気がおいしく、自然の豊かなネパールが恋しくなります。

滞在家中から 神戸市須磨区 西村美津子さん宅
私は何の形でもPHD運動に加わりたいと思いき、シヨバハさんをお迎えしました。彼女のシャワーや洗面の時、水の音が小さいので尋ねてみたら「ネパールに水がありません」との返事。私たちの日々の姿勢を正された気がしました。また、彼女のつくるネパール料理を囲みながら、飽食日本の食生活について議論をうわべだけでなく、「共に生きる」という言葉がうわべだけでなく、体験した気がしました。明るく楽しい、ふれあいが、我が家にお別れが早く感じられます。

洋裁を基礎から学び、ネパールでは入手しにくい既製品の婦人物スーツ・コートが縫えるレベルを目標にします。

BOOKS

カンポンのガキ大将

●ラット作 ●鉄島早苗 末吉美栄子訳 ●島文社刊 1600円



マレーシアの農村の生活、風俗、習慣をとても楽しく、そしてつらつらと描いたこの作品は、作者の子ども時代を表現したものです。昔からの習慣などを大切に、仲良く素朴に暮らす人々。日本で出版されたアジアの作品の中から、ほのぼのとした絵本をご紹介します。

アジア農村のダイナミクス

●岩村昇▶松下雄▶野中耕▶中村尚司▶長峯晴夫 ●YMCA国際・社会奉仕センター刊 500円

ここ約5年間われわれのアジアに対する関心は少しずつ高まり、書店にもかなりの本が出版ようになってきた。2、3年前までは本が少なかったようだが本書のような実践書が出版されることはうれしい。本書は市民講座「アジア農村のダイナミクス―途上国理解の基本的視点―」をまとめたものである。構成は5人のスピーカーの話をもとめておりそれぞれに簡潔で読みやすい。一般論を学術的に叙述したと主観的なドク

ュメンタリーでなくすべて報告者は実際に草の根の人々の中に分け入り、そこで出会い発見したその人々の実践を客観的にまとめている。従って表現は具体的でシンプルである。特にアジアのレポートに加えて長野県松川町からの報告は身近なケースとして説得力が高い。

アジアの一般的理解から一歩進んで自分はどうのように関わろうかと模索する人々にとって本書は具体的な指針を与えてくれるであろう。

アジアを助けてあげようという視点でなく、草の根から出てきた本当の芽が育ち、広がるよう支援する「自立するための援助」に関わる視点こそ本書刊の意図であろう。

※PHD協会でも取扱いします。お問合せ下さい。

トルカリ (カレー風野菜料理)

材料(4人分)
じゃが芋:1個 カリフラワー:1/2個
にんじん:1本 玉ねぎ:1/4個 トマト:2個
骨付き鶏肉:300g にんにく:1片
唐辛子:1本 おろししょうが:大きじ1
カレー粉:小さじ1 塩:少々

- 作り方
- ① じゃが芋は4切り、トマト・にんじんは乱切り、カリフラワーは小房に分けます。
 - ② サラダ油大さじ2を熱し、玉ねぎ、唐辛子のみじん切りをよく炒めます。
 - ③ ②に鶏肉、おろししょうが、おろしにんにく、カレー粉、塩を入れ炒めます。
 - ④ ③に①を加え、水2カップを加え煮込む。汁がなくなったら皿に盛りつけてできあがり。

算の根交差卓

ネパールの台所
तरकारी
トルカリ
दाल
ダル

ダル (豆のスープ)

材料(4人分)
ささげ:1カップ 玉ねぎ:1/4個
トマト:1/4個 ピーマン:1個
おろししょうが:小さじ1 バター

- 作り方
- ① 一晩水につけた豆、水3カップ、塩少々を弱火で1時間煮て、水気がなくなったらつぶし、さらに水4カップを加え煮ます。
 - ② 玉ねぎの薄切り、ピーマンの細切り、トマトの乱切りをバターで炒め①に加え塩味を整え、最後にしょうがを加えます。ご飯にかけてもちろん手で食べます。

